

著 高山久彦 (手紙)

「全國労働組合会議」を中止しといふ、之に異を唱へるも
團體は大體は自由主義を奉じてゐる。海峽を二總
同盟の如き在留外國人の差加を見こみつつた爲に實際の
上には全同的統一にあらぬので、日本海峽總会の提唱一
日本労働組合連合会に加盟しといふ。
更に共産主義其他の主義の排撃、上掲しとも相違
我々の議論をしたが、指導方針の問題で、これ位
の限定もしても組合発展の上に障害にはならぬといふと
是より正確なる一とである。
我が本邦一としては、本は方針として強對に排撃一
と云ふ方を持ておきたい、尚右實況は必然的に先
天の段階にあるといふ意味の下に加盟しといふ。

其指導方針の統一は、之も全同的なるを要し、我々も
右指導方針をやつて行くべき。本信原部は之を
事は折次石炭化すといふが、我々は本信原部一
無能に終らす事なく、本信原部を漸進し、此の利
害を痛く感じ、尚多量の國庫をも加せせしむる爲に
線統一に進み、及び。

計算 西村 (大段)

「労働組合」の指導方針は、社会民主主義
であつて、かかるものに加盟する事は労働階級への意義
が大きい。本信原部の如く、其に属するものは實に
社会民主主義の立場にあり、其の